

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No.55 2011.10.15

第6号(24年10月号)から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で62年を迎えます。過去の記事から、その歩み的一端を振り返っていきます。

神無月

中山正善

十月は旬刻限の到来と共に、陽気ぐらしの教を始められた日のある月である。それであるのに、古くから神無月と云われている。一寸、腑に落ちない気持を、永らく持っていたので、この機会に、座右の広文庫(注)を相手にして、神無月の由来をたづねてみた。神無月とは「カンナヅキ」又は「カミナシヅキ」と訓む(中略)古くから陰暦十月を指すものとして、用いられて来たものである。

さて、広文庫を繰りひろげてみて驚いたことには、その説明に定説がないと云うことと、昔から幾人かその由来を説明しようと試みたが、多くは「説々多シ」(古今要覧稿)と逃げている。結局は無意味に終わっている事だ。又何時か用いられているかもはっきりしていないようである。次に諸説の重なるものを列記

して、参考に供えよう。

第一番に、最も広く、且通俗に云われている意味は、日本^①の神々が、出雲の国に集ると云う。但し、この場合には、出雲の国のみでは、神在月、又は神月と云うのだと、丁寧^②に説明している向もある。勿論、否定した連中も多いが、

俗間言いはやされて来たことだけは窺われる。

○奥儀抄「天下のもろくの神出雲国にゆきてこと国に神なきが故に、かみなし月といふをあやまれり」(中略)

(編集部 様々な古文獻から多くの文例が引用されている)

以上、十三通りの説明がされている。夫々の文獻についての知識が充分でないので、

一々比較検討する事はさげ羅列するにとどめたが、十月を指して神様の留守の月と云う

のは、必ずしも当らず、むしろ、神嘗月^③の如き神事に縁のある月の転訛とされているなど、面白いと思った。

又広文庫以外の書物には、これ以外の説明もあるかもしれないが、今日それまでをしらべる余裕もない。御存知の方はお知らせも頂きたいし、御興味のある方は、御自分でも当たってみて下さい。

(注) 明治時代前の文獻からの引用文を集大成した類書(一種の百科事典)で、大正時代に完成した。



親里での節

岡崎氏は大正二年からアメリカのポートランド市に移住して運送業を営んでいた。その妻国枝さんは大正六年、教校を卒業するや直ちに夫の後を追って渡米し、共々につつましい信仰生活を続けていた。

ところが、大正十五年の秋、国枝さんは当時五才の四男ロニー君を連れて、おぢばに帰った。幾年ぶりに踏む親里の土に国枝さんの胸はなつかしさを一杯であった。

だが、その滞在中のこと、ある時、ロニー君が畳の上で転び、足を痛めてしまった。しかもその痛みは非常に激しく、可哀想にロニー君は熱を出して苦しみ出した。余りのことに驚いた国枝さんは急いで医者への診断を受けた。医者は足の骨にひびが入っているから手術をしなければ足が腐ってしまうと言う。



国枝さんの驚きは勿論のこと、一同は大いに心配し、いろいろと神様にお願いをした。しかし、ロニー君はますます痛くなるのか、悶えるような苦しみ方である。それを見るにつけ、国枝さんは身も心も

くというのは、海外布教にお急きこみになる神様の深い思召しがあることと思う。アメリカの布教の土台となる心を定めるように……」

片山氏のさとしには力がこもっていた。

そこで国枝さんは海外布教の捨石となる心定めをして神様にお願ひして、おさづけを頂いた。不思議なことに、ロニー君の足の痛みはそれきり止まってしまった。全く嘘のような御守護に国枝さんは有難涙をどうすることも出来なかった。

かくて、国枝さんは勇む心に熱い伝道の意欲をたぎらせながら帰米の途についたのである。 米国十年史

この世の柱

あらぬ思いだった。そこへ、当時の本島分教会長であった片山氏がやって来た。

「あなたがおぢばへ帰って、お子さんの足にお手入れを頂

養徳社 よもやま話

○月○日 毎年恒例の健康診断が実施された。三十歳の私はまだだが、ほとんどは三十五歳以上の社員なので、バリウムを飲むなどして健康診断を受けた。「今年はバリウムが飲みやすかった」や、結果に「今年は何もなかった」と言い合っていた。

中でも特に心配されていたのは、お腹が前に突き出たメタボ気味な人。健康診断前から、時折座ってられないくらいの腹痛が襲っていた。健康診断では特に結果も出ず、原因がわからない。お腹の中で異変が起こっているの？ と危惧されていたが、その後の内視鏡での精密検査で腸が荒れていた事が判明。大きなことにならずに済んだ。

社員十名で『陽気』を毎月発行しているが、ひとりでも欠けると大変な事態になる。

日頃の健康の維持管理が、今の『陽気』発行に繋がっていると思う。

因みに私は若干筋肉が落ちていますが、健康診断は体重も各種数値もスマートで問題なかった。

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

秋季大祭発刊

長野県・信濃路に、今も輝く「二十」篇の求道記録

信濃路の伝道者たち

編者 支片務野教長 天理市川原城町 388
四六判並製 / 224頁
定価=1,260円(税込)

養徳社 出版
天理市川原城町 388
☎(0743)62-4503
http://yotokusha.com/

教理以上のもの

書いたもの読んだだけ、耳できいただけではこの道つかない。

もし、それで道がつくようであったら、本こしらえて読んでいたら、それでよいのや、蓄音器の盤に吹きこんで、聞いてたらそれでよい。布教師も教会も何もいらん。ひながたという理が重いのである。

関根豊松 講話

梶本宗太郎 講話

養徳社